



湾岸・アラビア半島地域ニュース

UAE：金融情勢に関する中央銀行総裁コメント (10月11日付中央銀行サイト)

11日、UAE中央銀行のナーセル・アル・スウェイディ総裁の金融情勢に関して発言している。

1. 預金額の75%はUAE国民(8%が非UAE国民のアラブ系外国人、17%が非アラブ系外国人)であるため、自国系・外国系銀行はともに強靱な財務状況にある。自国系銀行においては、UAE国民・アラブ系外国人の預金保有率がより高い。全銀行の資産に占める欧州系コマース紙幣及び中期社債の比率はわずか9.9%である。
2. 銀行間預金の資産に占める比率は、12.7%であり、これらはほとんどが自国系銀行の所有である。UAE系銀行及び、国内で操業している外資系銀行の資産の多くは国内にあり、契約当事者が明らかになっているため健全である。
3. 銀行の資産に対する資本金・準備金比率は、11.02%であり、バーゼル基準に照らすと高い水準にある。
4. UAE系銀行および国内で操業している外資系銀行の資金源は77.4%が安全であり、銀行は健全な基盤の上に立脚している。
5. 多くのUAE系銀行については、各首長国が相当数のシェアを占めているため、すでに解決済みである。政府あるいは中央銀行による介入の必要はない。